

第62回日本医史学会神奈川地方会 春季例会

日 時 : 令和6年 3月16日(土曜日) 14:50~17:20

会 場 : 鶴見大学記念館 2階 第1講堂
JR、京急鶴見駅から徒歩 10分

参加費 : 500円(日本医史学会会員、同学会神奈川地方会会員)
2,000円(非会員)

———— プ ロ グ ラ ム ————

日本医師会生涯教育制度単位申請予定

(敬称略)

14:50 開 会 松田隆秀(神奈川地方会 会長)

15:00 特別講演1 座長 桐生迪介(神奈川地方会 幹事)
「母子健康手帳 — 75年の足跡と未来への展望」
演者 中村安秀(公益社団法人 日本WHO協会 理事長)

16:00 特別講演2 座長 萩原悠太(神奈川地方会 幹事)
「社会衛生学の成り立ちと未来への展望」
演者 瀧澤利行(茨城大学教授・教育学部副学部長)

17:00 大会長 瀧澤利行より「第125回日本医史学会 学術大会」のご案内
テーマ 『医史学研究と関連諸科学』
会期 2024.9.14(土)~16日(月)
会場 水戸市民会館

17:15 閉 会 関根 透(神奈川地方会 幹事)

特別講演 1 「母子健康手帳—76年の足跡と未来への展望」

中村安秀（なかむら やすひで）

抄録

妊娠したら母子手帳を受取り、妊婦健診の結果を記入してもらい、赤ちゃんが生まれたら、子どもの体重や身長、予防接種の記録を書いてもらう。妊娠・出産・子どもの健康の記録が1冊にまとめられていること、保護者が手元に保管できる形態であることを兼ね備えた母子手帳は、日本発のシステムである。第二次世界大戦後の1948年、感染症のまん延と栄養失調のなかで、母子の命と健康を守るために厚生省告示第26号として「母子手帳」が定められた。世界で初めて、母親と子どもを1冊の手帳で管理するという体制ができた。

日本の母子手帳に触発されて、国際協力機構(JICA)、ユニセフ、NGOなどの協力を受け、2023年末現在、世界50か国以上で、母子手帳が開発されている。識字率が高くない低中所得国においても、日本以上に積極的かつ迅速にデジタル化がすすめられている。

日本も世界に広がった母子手帳から学ぶ時代になった。持続可能な開発目標(SDGs)というゴールに向けて、国境を越えた学びのなかで、地域の実情やニーズに応じた新しい時代にふさわしい母子手帳を創造することが求められている。

ご略歴

1977年東京大学医学部卒業。小児科医。国際協力機構(JICA)専門家(インドネシア)、アフガニスタン難民医療など途上国の保健医療活動に取り組む。

東京大学小児科講師、ハーバード大学研究員、大阪大学大学院人間科学研究科教授などを経て、現在日本WHO協会理事長、大阪大学名誉教授。

母子手帳を世界に広めた功績で、2015年に第43回医療功労賞を受賞。

2021年にニューズウィーク日本版で『世界に貢献する日本人30』に選出される。

ご著書

- ・『海をわたった母子手帳』(旬報社, 2021)
- ・『地域保健の原点を探る』(中村安秀編著)杏林書院, 2018年
- ・『新ボランティア学のすすめ』(内海成治、中村安秀編著)昭和堂 2014年
- ・『医療通訳士という仕事—ことばと文化の壁をこえて』
(中村安秀・南谷かおり編著)大阪大学出版会 2013年
- ・『小児科外来医療英語』(中村安秀・中野貴司編集)診断と治療社 2012年
- ・『国際緊急人道支援』(内海成治, 中村安秀, 勝間 靖編集)ナカニシヤ出版 2008年

特別講演2 「社会衛生学の成り立ちと未来への展望」

瀧澤利行(たきざわ としゆき)

抄録

ヨーロッパ諸国では、19世紀に入って、出生率の減少が社会的課題となり始めていた。このために健全な人口増加のために医学の社会的適用の必要が叫ばれ、ドイツを中心に「社会衛生学」思想が議論されつつあった。

ドイツにおいて、「社会衛生学 Sozialehygiene」の思想が形成されたのは1850年代から1900年前後にかけてである。この時期に、カウプ(Kaup,J.J)、ヴェイル(Weyl.Th)、ゴットシュタイン(Gottstein,A)、アッシャー(Ascher.L)、グロートヤーン(Grotjahn,A)、フィッシャー(Fischer,A)らによって社会衛生学の基礎理論が形成された。社会衛生学が記述科学的側面では、統計学、人体計測学、経済学を主要な方法として挙げ、規範科学的側面では、医療保障や生活保障などの対策を中心とした社会改良主義に依拠する立場と、優生学に象徴される民族衛生学に依拠する立場とに分かれることになる。

明治末期から大正前期にかけて、日本でもドイツの影響を受けて社会衛生学のあり方が議論されるようになり、福原義柄、石原修、暉峻義等、国崎定洞などが種々の論を展開した。

社会衛生学は、国民の社会的生存に対して相応の配慮をすることによって国家の安寧と発展を図る「社会国家論」の主要な政策的内容である保健衛生政策を構成する上での理論的基盤を提供した。その基調となった視点は、グロートヤーンが主張したように「衛生的文化の一般化」であり、とりわけ労働者階層の衛生状態の改善による国民総体の健康化であった。社会国家における「生存への配慮」は、国民の健康や生活の安寧を保障すると同時に可及的多くの国民を労働社会に包摂することと意味していた。

ご略歴

1962年東京に生まれる。

1992年東京大学大学院教育学研究科健康教育学専修博士課程修了(教育学博士)

1998年大阪大学大学院医学系研究科社会環境医学系公衆衛生学修了(医学博士)

2004年放送大学客員教授(2011年まで)

2014年茨城大学副学部長

2022年放送大学茨城学習センター客員教授

ご著書

近代日本健康思想の成立(1993年)大空社

健康文化論(1998年)大修館書店

養生の楽しみ(2001年)大修館書店

養生論の思想(2003年)世織書房

鶴見大学へのアクセス

JR、京急鶴見駅(東京駅、新横浜駅、羽田空港から約 30 分)から徒歩 10 分



JR 西口階段を降りて左に曲がり、線路沿いを歩いて3分程で總持寺参道があります。参道に入り、すぐ左手に「鶴見大学記念館」があります。
2階 第1講堂においでください。